

福山大学 国際センター 平成30(2018)年度 自己点検・評価書

基準1. 使命・目的等

領域: 使命・目的、教育目的

2018年度

国際センター

中長期計画	福山大学国際センター規則に定められた理念・目的は以下の通りである(第2条)。 一 外国の大学及びその他の教育・研究機関等との交流(以下「国際交流」という。)について企画し、推進すること 二 外国人留学生に対する日本語教育等を実施するとともに、日本における生活上の指導助言等を全学的に行うこと 三 中華人民共和国(以下「中国」という。)における教育・研究拠点を統括し、本学と中国の教育・研究機関による教育・学術交流を推進すること 四 その他、本学の国際化の目的を達成するために必要な業務以上の理念・目的の達成を中長期計画とする。

2018年度

国際センター

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等のそれぞれの使命・目的および教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	国際センターの使命・目的および教育目標は国際センター規則第2条に定められており、その意味・内容は具体的かつ明確である。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	特になし
根拠資料	①福山大学国際センター規則第2条
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	本学の国際交流の個性・特色の1つは中国の大学との強い連携により多くの優秀な編入生を受け入れていることである。また福山市と関係の深いブルガリアとの交流は特色となっている。
年度目標	中国からの留学生数が漸減しており、それをカバーするため多様な国・ルートで優秀な学生を受け入れたい。
年度報告	本学の規模、立地などを考慮すると、個性・特色ある国際交流活動を展開した。
達成度	S
改善課題	全学で国際交流活動が活発になりつつあるが、部局間に温度差があるので全学的な取り組みにしたい。
根拠資料	①外国の大学と新たに締結した教育研究協定書ほか
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	グローバル人材の育成は地域社会の要請であり、それに応えるべく国際交流活動を強化している。また福山市のグローカル人材育成事業でも、地域社会の要請に応え本学が重要な役割を果たしている。
年度目標	本学から海外に留学する学生数は徐々に増えてきたとは言え、まだ学生数に対する比率は低い。これを徐々に改善したい。またトビタテ！留学のような地域社会と連携した国際交流活動を活発化させたい。
年度報告	地域と連携した国際交流活動を積極的に行い、社会の要請・変化について検討した。
達成度	S
改善課題	全学的な視点から、国際交流に対する社会や地域のニーズに応えていきたい。
根拠資料	①福山市グローカル人材育成事業に5人採択など。
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

国際センター

中点検項目	1-2. 使命・目的および教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的および教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	国際交流の使命・目的および教育活動は教職員の理解と指示を得ており、部局を越えた協力体制があると考える。
年度目標	各種国際交流活動を周知・広報し、より理解と支持を拡大したい。
年度報告	国際交流活動に対する教職員の理解と支持が徐々に全学的な広がりをみせている。
達成度	A
改善課題	全学的な理解と支持を広げているが、まだ十分とは言えない。
根拠資料	① 国際センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し周知していますか。
現状説明	本学の国際交流への取り組みについては、学内の掲示物やメール配信、各種講演会の開催、ホームページやFBPを通じて学内外へ公表している。
年度目標	現状を維持
年度報告	各種国際交流活動を通じて、本学の取り組みを学内外へ公表した。
達成度	A
改善課題	引き続き学内外への公表に務める。
根拠資料	①国際センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 中長期的計画へ反映していますか。
現状説明	国際交流活動をセンター規則の使命・目的と照らし合わせ、社会的な環境の変化に合わせて中長期計画に反映させる部分があるか検証している。
年度目標	現状を維持
年度報告	運営委員会などを通じて適宜見直し、中長期計画への反映に務めた。
達成度	A
改善課題	社会の要請や時代の変化に基づき、引き続き中長期目標の見直しに努める必要がある。
根拠資料	①国際センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 3つのポリシーへ反映していますか。
現状説明	国際交流活動も、3つのポリシーを反映したものになるよう点検しながら活動している。例えば留学を通じて問題解決能力や豊かな人間性を涵養するなど。
年度目標	国際交流活動は3つのポリシーに則ったものになっており、現状を維持する。
年度報告	大学の3つのポリシーに則り、国際交流活動を行った。
達成度	A
改善課題	引き続き大学の3つのポリシーに則って国際交流活動を進め、3ポリシーへの反映に務める。
根拠資料	①国際センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	国際センターの組織は国際交流部、留学生部、北京センターからなり、前2者は各学部学科から委員を出して頂いており、構成と整合性は取れていると考える。
年度目標	現状を維持
年度報告	国際センターでは、引き続き留学生向けの授業を担当する教員組織を維持し、日本語教育に努めた。
達成度	A
改善課題	引き続き国際センターの使命・目的と教員組織の整合性確保に務める。
根拠資料	①国際センター担当科目のシラバスなど
次年度の課題と改善の方策	

基準2. 学生**領域：学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応**

中長期計画	大学のグローバル化を推進し、グローカル人材を育成するために以下を中長期計画とする。 ・学生のグローバル化を進めるため、国内外の組織と協働してより多くの海外留学・国際体験の機会を提供する。 ・本学に受け入れた外国人留学生が快適に勉学・生活できるよう、日本語教育や留学生の生活支援を続ける。 ・外国人留学生の受入については各学部学科の管轄であるが、国際センターは優秀な外国人留学生の確保のために支援を行う。 ・教員の国際化を進めるため、海外パートナー校との教員の交換や研究交流の促進を図る。

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	国外編入学入試および日本大学連合学力試験入試の募集要項(アドミッション・ポリシーを含む)は各学部で審議された後大学HPに掲載し、協定校などにも送付しているほか、パンフレットなどでも周知を図っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	アドミッション・ポリシーは関係各学部で策定・周知され、国際センター独自のものは無い。外国人留学生募集のためのパンフレット(中国簡体字版・繁体字版)を新たに製作し、その中に各部局のアドミッション・ポリシーを記載して周知した。
達成度	A
改善課題	国際センターはグローバルアドミッションに関わっているが、グローバルアドミッションオフィスの設置が望ましい。
根拠資料	①特になし
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れているかどうかは受入学部学科により検証されている。外国人留学生へのAPの周知や改善にいかす方途について、受入学部学科と協議しその改善を支援している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	国際センターはグローバルアドミッションに関わっているが、グローバルアドミッションオフィスの設置が望ましい。
根拠資料	①国際センター国際交流部運営委員会議事録

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	関係学部の委託により、中国協定校による編入学入試や日本大学連合学力試験利用入試の支援を行っている。
年度目標	30名(留学生)
年度報告	H30年度の編入留学生ならびに日本大学連合学力試験入学者の総人数は37名で、従前と比べて若干増加している。一般財団法人「国際教育交流基金」を利用した中国での高校生向け入試も実験的に行なったが、残念ながら結果は出なかった。
達成度	A
改善課題	既存協定校の日本語学科の閉鎖や定員減、事実上のダブルディグリー中止(中山大学)などで、H31年度の入学者数はかなり減少すると見込まれる。
根拠資料	①出張報告書 ②学部教授会審議資料等
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。出来ていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

国際センター

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	留学生の日本語学習を支援するため、国際センターでは日本語に関する講義を設け補習を行っている。また留学生部では留学生集会を行っている。海外に留学する学生には事前事後学習を行い、関係学生に通知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持し、留学生向けの授業を行って、教員と職員の協働の下、留学生の学修支援に努めた。
達成度	A
改善課題	留学生の日本語能力を高めるための学修支援を更に続ける。
根拠資料	①様々な学修支援活動を国際交流ホームページ上に掲載

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

国際センター

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間に亘る資料を収集し、検証していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	

年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取組んでいますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

国際センター

中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取組んでいますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取組みを行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

国際センター

中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティースペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取組んでいますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	

達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	

年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

国際センター

中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	

根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

国際センター

基準3. 教育課程

領域：卒業認定、教育課程、学修成果

2018年度

国際センター

中長期計画	
-------	--

2018年度

国際センター

中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ループリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	

改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

国際センター

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	

年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
d	⑥ ディプロマポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

国際センター

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメントポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックはどのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

国際センター

基準4. 教員・職員

領域：教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援

2018年度

国際センター

中長期計画	福山大学国際センター規則では、センター組織を以下の様に規定している(第7条、第12条、第13条) ・センターにセンター長、副センター長、部長、副部長、専任教員及び併任教員を置く。 ・専任教員は、外国人留学生の日本語教育その他第5条に規定する業務に従事する。 ・併任教員は、本学教員のうちからセンター長が選考して学長に推薦し、学長が任命する。 併任教員は第5条に掲げる業務に従事する。 以上に従い、教員の配置を行う。
-------	--

2018年度

国際センター

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネジメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	現状ではセンターには学長に任命された専任教員が一名在籍している。センター長は、関係教員と密接に協議し、教学マネジメントに於いて適切にリーダーシップを発揮している。
年度目標	現状を維持
年度報告	センター運営委員会には担当副学長が参加し、学長のリーダーシップが発揮できる体制にある。
達成度	A
改善課題	センター長は適切にリーダーシップを発揮しており、特に大きな改善点はない。
根拠資料	①国際センター運営委員会議事録ほか
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	本センターでは、国際交流部長副部長、留学生部長副部長、北京センター長、貴州センター長、専任教員が権限・役割を適切に分散し、責任を明確化したマネジメントを実施している。全体を担当副学長が統括する。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した
達成度	S
改善課題	現状で特に問題はない。
根拠資料	①国際センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネージメントの機能性を高めていますか。
現状説明	国際センターの事務は国際交流課が担当しており、双方協力して機能性を高めている。
年度目標	教員組織と職員組織がより緊密に連携することにより、教学マネージメントの機能性を高めていく。
年度報告	職員の配置と役割分担にやや混乱が見られたが、大過なく終えた。
達成度	A
改善課題	職員の配置と役割分担を見直し、より機能的に教学マネージメントに貢献できるよう改善が望ましい。
根拠資料	①国際センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

国際センター

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development; 教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取組みを行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

国際センター

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development; 教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	平成29年度にはUCR教員による国際交流の重要性に関するSD研修を実施したほか、多くの海外教育機関のセミナーを行い、教職員の資質・能力の向上と教職協働への取り組みを実施した。
年度目標	現状を維持
年度報告	大学のSD研修に参加したほか、学外・国外で専門的な経験を積んだ。
達成度	S
改善課題	国際交流は専門性の高い部局なので、専門知識と経験の豊富な職員の拡充が望ましい。
根拠資料	①大学のSD研修会資料 ②国際交流課職員の海外出張報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。
現状説明	広報宣伝活動にはICTを利用しているが、運営の効率化のためにはあまり利用していない。
年度目標	効率改善のためにICTいかに活用すべきか検討したい。

年度報告	ホームページやSNSによる広報活動以外、特に積極的にICTを活用したとは言えない。
達成度	B
改善課題	ICTをいかに活用すれば効率が改善できるか、検討する必要がある。
根拠資料	①大学ホームページ ②国際交流Facebook Pages
次年度の課題と改善の方策	ICTをいかに活用すれば効率が改善できるか検討し、海外との交流などに活用したい。

2018年度

国際センター

中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

国際センター

基準6. 内部質保証

領域：組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル

2018年度

国際センター

中長期計画	<ul style="list-style-type: none"> ・国際センターは国際交流部、留学生部、北京教育研究センターからなり、前2者には運営委員会が設置されて内部質保証に務めている。 ・北京教育研究センターの主な業務は中国人留学生のアドミッションであり、内部質保証組織が無い。中長期的に、グローバルアドミッション業務は全学的なグローバルアドミッションオフィスが担当するのが望ましいと考える。 ・海外研修などセンターが実施するプログラムについてアンケート調査などを行って質保証に努めているが、さらに充実させてきたい。
-------	--

2018年度

国際センター

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	内部質保証に関しては、国際交流部及び留学生部運営委員会にて検討し、それを担当副学長が参加する国際センター運営委員会で検討する体制を取っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	現状で特に問題はない。
根拠資料	①各種委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目 6-2. 内部質保証のための自己点検・評価	
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	国際センターでは国際センター運営委員会を定期に開催して内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価を行っており、その結果を会議を通じて担当部局の教職員が共有している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	現状で特に問題はない。
根拠資料	①国際センター運営委員会議事録ほか ②自己点検評価結果
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	IRについてはまだ良く理解していない部分が多いので、今後検討していきたい。
年度目標	IRについてはまだ良く理解していない部分が多いので、今後検討していきたい。
年度報告	手始めに、国際交流関係委員会の議事録をKarinに挙げるべく務めた。
達成度	B
改善課題	議事録の整備、Karinへの掲載をしっかりしていきたい
根拠資料	①キャビネット・カリン
次年度の課題と改善の方策	議事録を整理し、確実にKarinに掲載するよう努める。

中点検項目 6-3. 内部質保証の機能性	
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	内部質保証はセンター運営委員会で検証してPDCAサイクルを回す仕組みとなっており、それが大学全体の視点からみて機能しているかどうかを運営委員会で検証している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	引き続き、運営委員会でPDCAサイクルの機能性を検証していく。
根拠資料	①国際センター運営委員会議事録ほか
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

国際センター

基準7. 福山大学ブランディング戦略

領域：本学独自基準と点検・評価

2018年度

国際センター

中長期計画	
-------	--

2018年度

国際センター

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	① 福山大学ブランディング戦略 (ver. 2018) の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との区別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取組んでいますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取組んでいますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目標としています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	

年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 福山大学プランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

国際センター

中点検項目	7-2. 福山大学プランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取組んでいますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学プランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	

根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	